

## 平成 26 年度第 2 回外部評価専門部会 会議録

日 時 平成 26 年 9 月 26 日（金） 13 : 30～15 : 30

場 所 市役所本館議会会議室

議 題 (1)部会選定事業の事業概要及び内部評価内容の説明について  
①農畜産物のブランド化  
②中心市街地活性化事業  
(2)市側選定事業の最終評価について  
①老人クラブ活動支援  
②包括的支援事業（総合相談支援業務）

出席者 高井伸二部会長、櫻田一雅委員、小林博子委員、山端政博委員  
（欠席委員 立崎享一委員、江渡恵美委員）

担当課 とわだ産品販売戦略課：高屋課長、平館課長補佐、高淵係長  
商工労政課：佐々木課長、石坂課長補佐、今課長補佐

事務局 沖澤課長、福島課長補佐、神係長、成田主任主査、鳥谷主任主査

### 会議内容

(1)部会選定事業の事業概要及び内部評価内容の説明について

①「農畜産物のブランド化」について、とわだ産品販売戦略課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	○商標登録名は何か。 ◆「十和田湖ひめます」です。 ○ひめますの供給状況は。 ◆まだ余裕があり、さらに広く供給できます。
山端委員	○農業分野でのブランド化は難しい、ただし、市の決め手であることも承知している。農協との連携はどうなっているか。 ◆（JA発のミネラル野菜）「トムベジ」は、高い評価が定着してきています。土壌診断をしっかりと行った中で、「だからおいしい」という進め方をしております。また、十和田市では 130 種類の野菜が採れてお

	<p>り、主要品目に限らず、珍しいものたちにも光を当てています。</p> <p>○ゆかりのある有名人とうまく絡めれば、メディア露出等ができてよいと思う。</p>
櫻田委員	<p>○生産から販売の流れの中で、三農との関わり、つながりは。</p> <p>◆今はあまり多くないですが、おとし、東京の飯田橋で三農生が販売を体験しました。去年はごぼうガールズが行いましたし、そういう形で学生さんたちがPRや販売を体験しています。</p>
小林委員	<p>○他県へのPRに加え、地元にも広めてほしい。主婦は、いいものに飛びつく。まずは市民に教えることがいいと思う。</p>
高井部会長	<p>○JAと市の立ち位置の住み分けは。</p> <p>◆市から見れば、取扱高は大きいがJAもイチ事業者です。ただ、巨大スーパーが相手ですと、やはりうまくJAと連携する必要があります。</p> <p>○主要4品目の出来高、シェアは。</p> <p>◆にんにくでは、青森県が全国の8割で1位です。生産量は十和田市がトップです。長いもでは、十和田市は2位です。</p> <p>○ミネラルにんにくは、どうやって認定するのか。</p> <p>◆JAに診断により、糖度と硝酸の基準値を満たしたものを「トムベジ」、そうでないものは「青森県産」として出荷しています。</p> <p>○それらの価格差は。</p> <p>◆多少あります。また、「トムベジ」は独立したコーナーがあります。</p>
山端委員	<p>○JAは広域であり、「トムベジ」はすべて十和田産というわけではないのではないか。</p> <p>◆おしなべて全部が十和田なのだ、その中で代表の野菜たちがしっかり信頼を得るのだ、という考えに立っております。</p> <p>○市の姿勢は、JA寄りなのか。</p> <p>◆市はあくまでも、ミネラル野菜と呼んでいます。トムベジはその中の一つです。</p>
小林委員	<p>○土壌作りは全農家がやっているのか。</p> <p>◆現在、すそ野を広げている最中にあります。</p>
高井部会長	<p>○土壌診断は、自腹でやっているのか。</p> <p>◆今年度は、市が補助金を出しています。</p>
櫻田委員	<p>○力を併せて、地域全体で6次化を目指そう。</p>
高井部会長	<p>○ネットによる販売などにサポートする方法もあると思う。</p>

②「中心市街地活性化事業」について、商工労政課から事業の概要等に関する説

明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
山端委員	<p>○職員 2 人が 200 日で人件費が 1,400 万円とは、高すぎないか。</p> <p>◆人件費は、計算にもとづき、実額ではなく全職員の平均を使って表示しています。年間の平均人件費約 850 万円については、すべてが本人の所得ではなく、医療保険の事業主負担と退職手当引当を含んだ値です。</p>
櫻田委員	<p>○2 期計画を国に出す場合、そのタイムリミットは。</p> <p>◆チャンスは何度かあります。ただ、目玉事業があるか、のほうが肝心と思います。なお、国からの情報で、次期中活計画の策定には 1 年間は間をあけてもよいとあります。</p> <p>○単年度計画でも、国は認めるのか。</p> <p>◆認める場合があります。国に認められれば、補助金の額等で多少のメリットはあります。とはいえ、国に認められていなくても補助金が出ないわけではありません。</p> <p>○中心市街地の活性化というのは非常に厳しいということは、会議所も承知している。一部の者だけが頑張るのではなくて、市民みんな考えていかなければならない課題だと思う。</p>
山端委員	<p>○役所だけが頑張るのではなく、大学や市民の声を取り入れてはどうか。識者たちとひざを交えるような感じで相談してみてもは。</p> <p>◆現在、中心市街地活性化協議会というものがございまして、その中でさまざまな方と関わりを持っております。その中に大学の先生等も入っております。</p>
櫻田委員	<p>○国の「地域創生」はどんな案となるのか、それが見えてくればもう少し進めるのではないかと期待する。</p>
高井部会長	<p>○実際に予算執行されている数々の事業と、今回の中心市街地活性化事業との住み分けはどうなっているか。これが全体図のどの部分なのか、イメージを知りたい。</p> <p>◆当課は、個々の事業の担当課でもあり、全体の取りまとめ役でもあります。今回の評価シートの事業費は、当課だけの分を表記しています。</p>
櫻田委員	<p>○マチナカに住むための補助金は、何件くらい出ているか、増えてきているか。</p> <p>◆昨年度は、定住促進は 23 世帯 63 人で、340 万円程度補助しております。住宅整備促進は 1 件のみ、都市型共同住宅整備促進は 2 棟 42 世帯分のアパート新築があり、380 万円程度補助しております。なお、最初の定住促進については、今年度は途中ですがすでに昨年度を上回</p>

	<p>る申込みを受けております。</p> <p>○では、マチナカに住む人は増えてきていると考えてよいか。</p> <p>◆少なくとも、この事業を実施しないよりははるかに効果があったのではないかと感じています。</p>
高井部会長	<p>○マチナカに住む人への補助の金額はどのくらいか。</p> <p>◆家賃から本人が会社からもらう住宅補助の額を引いた額、の半分です。ただし、最大 2 万円、単身世帯だと最大 1 万円です。年間で最大 24 万円なので、かなり助かっているのではないかと考えます。</p> <p>○中心地を活性化させるには、職場を作るか、外から来てお金を使ってくれる学生を集めるか、になる。うちは学生が 1400 人いるが、マチナカに 100 人住まわせれば効果はプラス 100 となろう。</p> <p>◆十和田市は幸いなことに、公共的な施設がマチナカに集まっているので、こちらも、どんどんマチナカに住んでもらいたいと考えております。</p> <p>○マチナカに住む数を増やすには、住んでもらうターゲットを決め、それを集めるための戦略を練るところから始める必要がある。昔は松木屋・亀屋など経済活動による賑わいだったが、今は生活の場としての賑わい、という位置づけにしていくべき。</p>
櫻田委員	<p>○十和田市は風水害のあまりない場所なので、安全で住みやすいところを売りにしてはどうか。</p>
小林委員	<p>○聞いた話だと、青森市が住みやすいという評価のようだ。雪国だけど、中心にいろいろ集まっていることがポイントらしい。十和田市も、負けていないと思う。</p>
高井部会長	<p>○いずれにせよ、現在は計画に基づいて着々と事業が進行しているところではあるが、次のステップとして、これが終わった後どうするか大きな課題だと思う。</p>

## (2)市側選定事業の最終評価について

①「老人クラブ活動支援」について、下記のとおり最終評価が行われた。

### 【事前評価まとめ】

事業の妥当性についてはみなさん問題がなく、「高齢者に対して、社会資源として活用する」、「支援対象とするクラブの要件を緩める」などのご意見が複数あった。この事業についてはポジティブな評価であり、社会情勢を見据えて現状に合った形で頑張っ  
て欲しいということ。前回の会議内容も踏まえて、最終評価をお願いしたい。

### 【評価結果】

○事務事業の方向性

現状のまま継続 1人

有効性を改善して継続 1人

効率性を改善して継続 1人

事務事業の統廃合を図る 1人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・高齢社会を考えると、現状のままの活動でよいと思う。
- ・シニア資源の有効活用等の方策を探って、成果向上を目指す。
- ・一律支援を維持し、評価支援を強化すべき。
- ・日本中で高齢化が進んでいるので、事業の内容を考えたらいいと思う。

②「包括的支援事業（総合相談支援業務）」について、下記のとおり最終評価が行われた。

#### 【事前評価まとめ】

事業の妥当性については問題がなく、「相談できる場所の増加及び体制の構築」などのご意見が複数あった。こちらの事業についても、いずれも前向きなご意見である。前回の会議内容も踏まえて、最終評価をお願いしたい。

#### 【評価結果】

○事務事業の方向性

有効性を改善して継続 2人

効率性を改善して継続 1人

事務事業の統廃合を図る 1人

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・支援体制の強化による成果向上を望む。
- ・今後ますます、相談件数が増えると思う。現在は旧町区域に事務局があるとのことで、時間を大切に、担当者にも負担をかけないようにすることも大切だと思う。
- ・高齢者が増えることによる、相談場所の増設と体制を考えながらの事業推進をお願いしたい。
- ・コスト削減と効率性・公平性のため、民間移譲による支援体制の早急な構築をすべき。

その他 ①本日質疑応答が行われた部会選定2事業について、10月3日（金）までに事前評価表への記入と事務局への提出を依頼した。

②次回の会議は10月14日（火）行革懇談会の終了後に議会会議室で行い、部会選定2事業についての最終評価を行うこととした。